

多治見市の環境・廃棄物

平成27年度版



多治見市環境キャラクター
地球を「まもる」くん

多治見市環境文化部環境課

目次

| | |
|------------------------------------|----|
| <はじめに>..... | 1 |
| 家庭ごみの23分別区+1 | 2 |
| 1 ごみ処理の経緯..... | 3 |
| 2 ごみの資源化状況..... | 7 |
| (1) 市の回収における資源化..... | 7 |
| ①分別による資源収集..... | 7 |
| ②持込みによる資源回収..... | 7 |
| (2) 市による回収前段階における資源化..... | 8 |
| ①資源集団回収 | 8 |
| ②家庭ごみにおける生ごみ処理状況 | 8 |
| (3) 有害ごみの回収..... | 9 |
| 3 収集..... | 9 |
| (1) 収集・運搬システム..... | 9 |
| (2) 家庭ごみの状況..... | 10 |
| 4 事業系ごみの持ち込み状況..... | 11 |
| 5 不法投棄対策..... | 11 |
| 6 三の倉センター（中間処理施設） | 12 |
| 7 大畑センター（最終処分施設） | 14 |
| 8 笠原クリーンセンター（中間処理施設・最終処分施設） | 16 |
| 9 堆肥化センター（中間処理施設） | 18 |
| 10 月見センター（し尿処理施設）..... | 19 |
| 11 処理施設における環境測定状況..... | 21 |
| (1) 三の倉センター..... | 21 |
| (2) 大畑センター..... | 22 |
| (3) 笠原クリーンセンター..... | 24 |
| 12 廃棄物処理にかかる経費の状況..... | 27 |
| 13 収集した資源の売払い..... | 28 |
| 14 ごみ減量施策の取り組む状況..... | 29 |

<はじめに>

本市では、昭和 58 年からカン・金属類、ビン類の分別収集を開始し、平成 3 年 4 月から古紙と古着類の資源集団回収（奨励金制度）を実施してきました。また、平成 9 年 1 月から有料指定ごみ袋制及び粗大ごみシール制を導入しました。

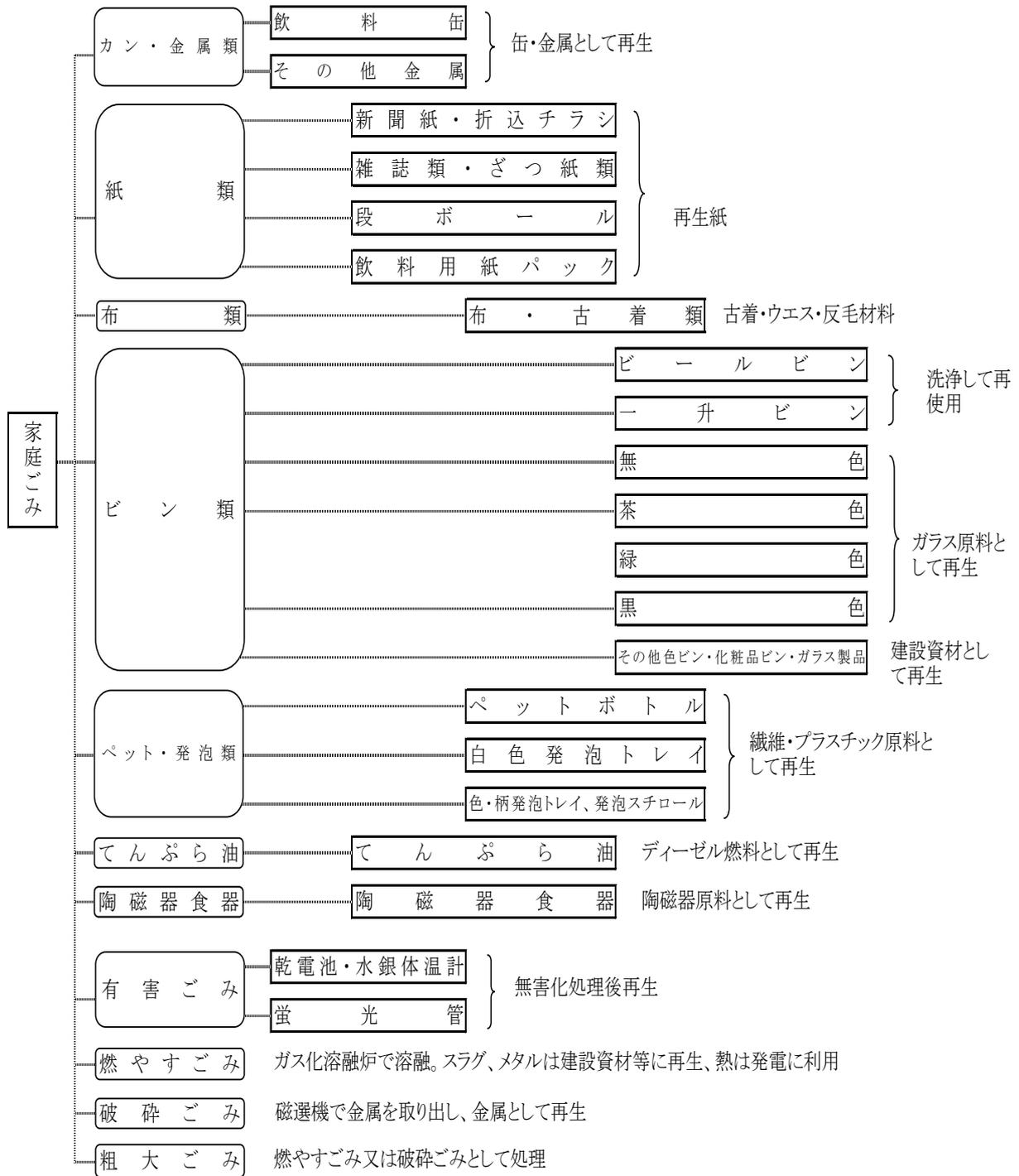
こうした中でも、本市のごみ処理施設の状況は、埋立処分場を他都市や民間施設に依存し、早急な対応が課題となっていました。平成 10 年度、環境庁（現：環境省）のモデル都市として「循環型社会システム構想」を策定し、平成 12 年 4 月から資源ごみの種類を増やし、23 分別による資源収集に変更し、全市をあげてごみの減量化に取り組んでいます。平成 15 年に焼却場を資源化率の高い直接熔融型の焼却炉に更新し、平成 18 年には堆肥化センターの運営を開始。平成 22 年 6 月から管理型最終処分場（クローズ型）の運営を開始し、自己完結型の施設群を整備するに至りました。

また、平成 22 年 12 月から家庭用陶磁器リサイクルの導入試験として拠点回収、平成 24 年度より「23 分別+1」として陶磁器食器のリサイクルステーションでの収集を開始しました。平成 23 年度においては、「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」の策定・施行に先駆け、国のモデル事業として、小型家電の分別リサイクルに取り組むとともに、スーパーや食品製造業者と連携して取り組む、国の食品リサイクルモデル事業に参画しました。

今後も、市民と事業者と協力し、循環型社会の実現に取り組んでいきます。

本書は、本市の基本計画である「第 2 次一般廃棄物（ごみ処理）基本計画」（平成 25 年度～34 年度）とその実行計画である「平成 27 年度多治見市一般廃棄物処理実行計画」の実績報告書として作成したものです。

家庭ごみの 23 分別区分 + 1



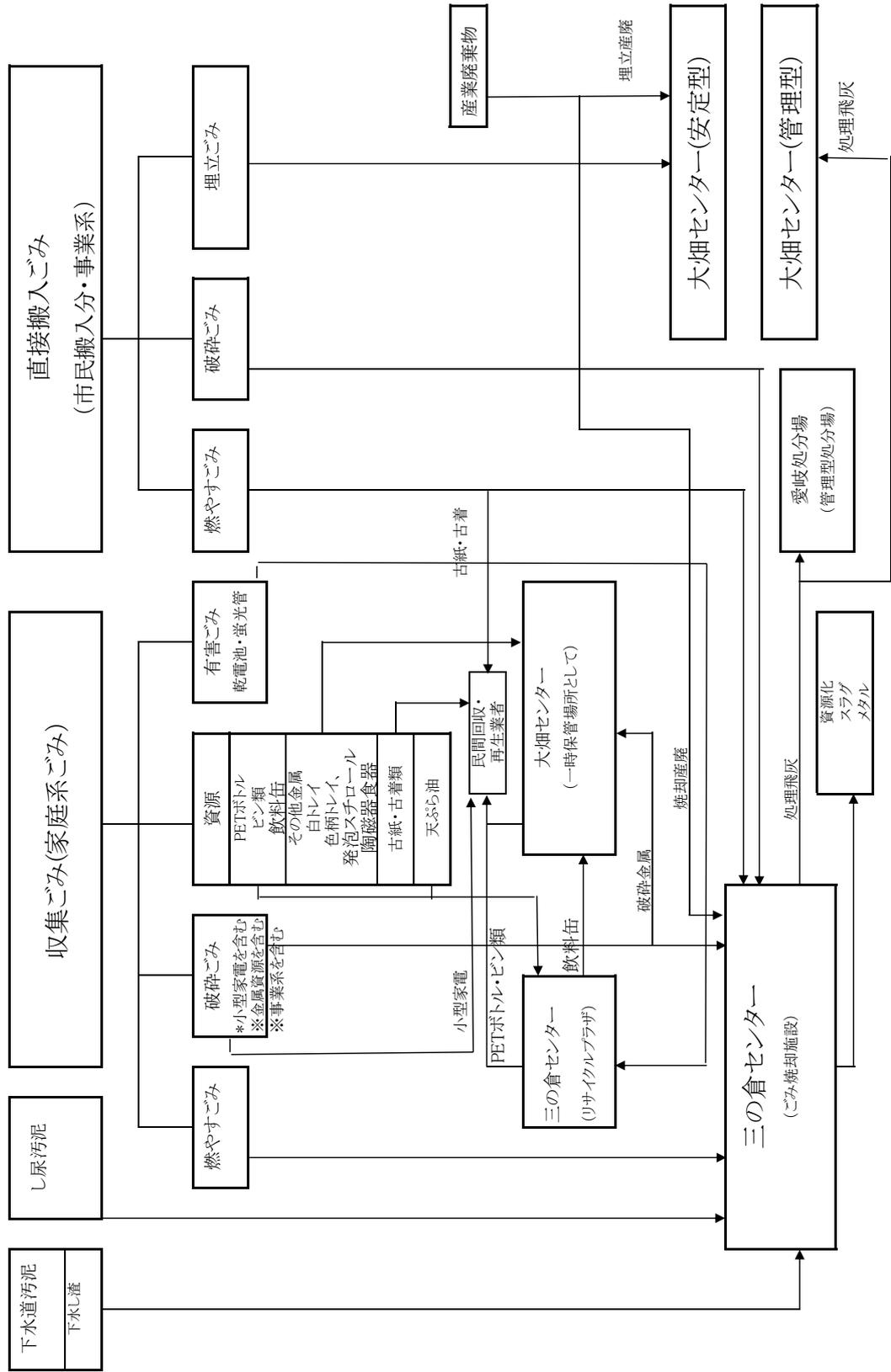
1 ごみ処理の経緯

多治見市における廃棄物行政の変遷

| | |
|---------|---|
| 昭和 24 年 | 市街地のじん芥収集開始(申込制、有料) |
| 27 年 | じん芥焼却場 脇之島に完成(日量 500 貫(1,875kg) 現平和町 4 丁目地内) |
| 32 年 | じん芥焼却場 7.5t 炉完成(現月見町地内) |
| 40 年 | じん芥焼却場 富士見町地内に完成(10t/日×2 炉) |
| 42 年 | 不燃物類収集開始(処分地 富士見町) |
| 46 年 | じん芥焼却場 富士見町地内に完成(50t 炉に更新) |
| 47 年 | 4 月から事業所有料、一般家庭無料化 大畑センター(不燃物処理場)を開設。富士見町処分場閉鎖 7 月から市指定ポリエチレン製ごみ袋導入(強制力は無し) |
| 48 年 | 大畑センターに不燃物圧縮処理施設建設(東濃三市一町広域施設) |
| 57 年 | じん芥焼却場 三の倉センター完成(50t/16h×2 炉) 大畑センターにビン類の仕分場建設 |
| 58 年 | 10 月から金属類、ビン類の分別収集開始(危険物を含め 6 分別収集体制) |
| 60 年 | 生ごみ堆肥化促進(コンポスト容器)助成制度開始(60~63 年 952 件) |
| 平成 2 年 | 併せ産廃の搬入許可を年間 50 トン未満の排出業者に限定 |
| 3 年 | 4 月から古紙、古着の資源集団回収助成制度開始 |
| 4 年 | 生ごみ堆肥化促進助成制度拡充(補助率の引き上げ) 12 月からごみ減量等推進協議会発足 |
| 5 年 | 4 月多治見市廃棄物減量等推進審議会設置 12 月からボカシの市取り次ぎ開始 |
| 6 年 | 大畑センターで生ビン回収開始 |
| 7 年 | 大畑センターで、冷蔵庫、エアコンからフロンガス回収開始(12 年度まで) |
| 9 年 | 1 月から指定ごみ袋制及び粗大ごみシール制を導入(家庭ごみ有料化の開始) |
| 10 年 | 電気式生ごみ処理機の補助制度を導入、ごみ減量協力店制度開始 環境庁委託事業で「循環型社会システム構想」策定 |
| 11 年 | 7 月から市内各地でモデル事業として、家庭ごみの 23 分別による収集を開始 次期最終処分場計画、地元住民との対立で白紙撤回 |
| 12 年 | 4 月から市内全域で家庭ごみの 23 分別による収集を開始 8 月から三の倉新焼却場・リサイクルプラザ建設工事着工(平成 15 年 3 月完成予定) 次期処分場候補地選定を完全公開、第三者機関により開始 |
| 14 年 | 4 月から一般廃棄物埋立税条例を施行 |
| 15 年 | 三の倉センターにコークスベッド式直接熔融炉完成 分別方法一部変更 埋立ごみの収集を廃止し破碎ごみの収集開始 次期最終処分場候補地を一本化、地元との協議を進める |
| 16 年 | 廃棄物処理手数料の値上げについて廃棄物減量等推進審議会に諮問 12 月議会で条例改定 |
| 17 年 | 7 月から廃棄物処理手数料値上げ |
| 18 年 | 1 月に笠原町と合併 |
| 18 年 | 4 月から多治見市堆肥化センターを本格稼働 |
| 18 年 | 7 月から旧笠原町地域 23 分別収集開始 |
| 21 年 | 3 月から大畑センター不燃性圧縮処理機の稼働を停止 4 月から笠原クリーンセンター焼却停止 |
| 22 年 | 3 月大畑センター管理型処分場完成。6 月より焼却飛灰受入開始 12 月から家庭用陶磁器リサイクルの導入試験として、拠点回収を実施 |
| 23 年 | 3 月から食品リサイクルモデル事業を実施 4 月から笠原クリーンセンターの可燃ごみ受入中止(休日受入のみ) 7 月から小型家電リサイクルモデル事業を実施 |
| 24 年 | 4 月から陶磁器食器の収集を開始し、23 分別+1 となる |
| 27 年 | 4 月から笠原クリーンセンターの可燃ごみ休日受入を中止 |
| 28 年 | 循環型社会システム構想事業終了 4 月から笠原クリーンセンターの受入休止 |

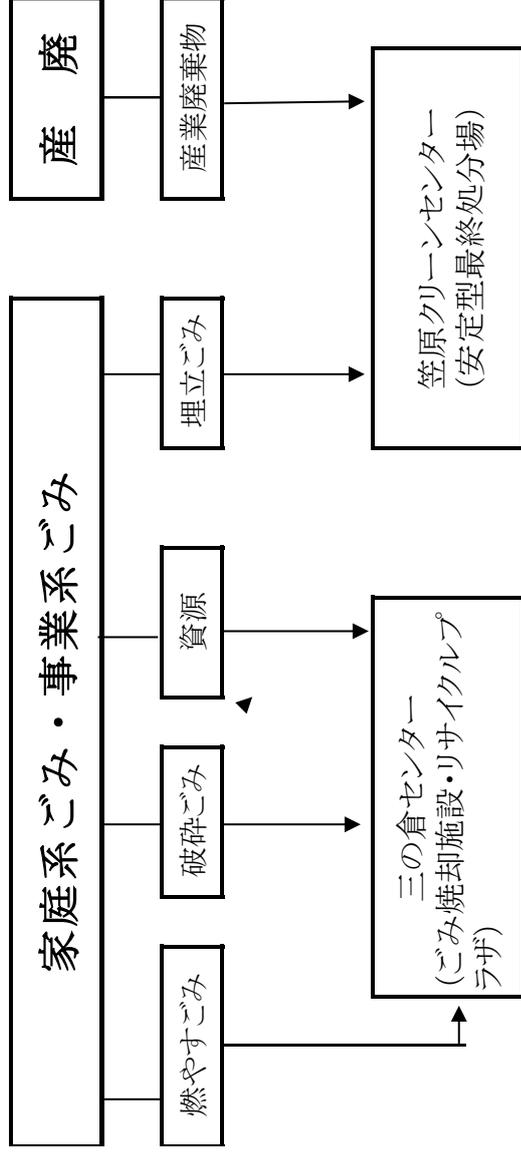
ごみ処理のながれ (1)

三の倉・大畑センター搬入分



ごみ処理のながれ (2)

笠原クリーンセンター搬入分



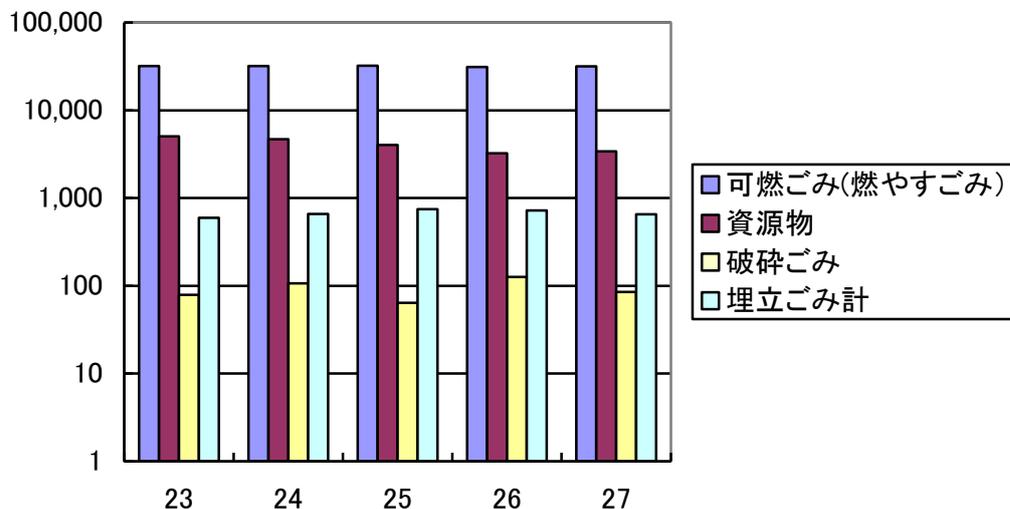
平成28年4月から受入休止

ごみ処理量の推移

(単位:t)

| 項目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 可燃ごみ(燃やすごみ)計 | 31,948 | 31,983 | 32,226 | 31,270 | 31,626 |
| 市収集(笠原は委託収集) | 20,477 | 19,996 | 19,497 | 19,149 | 18,903 |
| 名古屋市搬入分 | - | - | - | - | - |
| 許可業者 | 7,482 | 7,754 | 8,390 | 7,968 | 8,167 |
| 一般・事業系持込み | 3,989 | 4,233 | 4,339 | 4,153 | 4,556 |
| 破碎ごみ(破碎機処理後)計 | 79 | 107 | 64 | 110 | 85 |
| 市収集 | 208 | 187 | 177 | 169 | 152 |
| 許可業者 | 3 | 6 | 3 | 2 | 5 |
| 一般持込み | 96 | 114 | 148 | 276 | 77 |
| 破碎ごみの内の金属類資源化量 | △228 | △200 | △113 | △199 | △72 |
| 破碎ごみの内の小型家電(搬出量) | | | △151 | △138 | △149 |
| 資源物計 | 5,063 | 4,669 | 4,044 | 3,241 | 3,410 |
| 収集古紙・古着類 | 2,834 | 2,483 | 2,021 | 1,578 | 1,578 |
| 持込古紙・古着類 | 398 | 388 | 485 | 485 | 415 |
| 金属(搬出量) | 433 | 396 | 393 | 212 | 442 |
| 破碎ごみの内の金属類資源化量 | 228 | 200 | 113 | 199 | 149 |
| ガラスビン(搬出量) | 667 | 710 | 611 | 552 | 623 |
| ペットボトル(搬出量) | 135 | 149 | 133 | 128 | 124 |
| 白トレイ(搬出量) | 14 | 13 | 13 | 12 | 10 |
| 色柄トレイ・発泡スチロール(搬出量) | 25 | 23 | 22 | 24 | 17 |
| てんぷら油(搬出量) | 49 | 58 | 37 | 40 | 35 |
| 陶磁器食器(搬出量) | 47 | 69 | 65 | 51 | 52 |
| 破碎ごみの内の小型家電(搬出量) | | | 151 | 138 | 149 |
| 埋立ごみ計 | 596 | 661 | 749 | 723 | 655 |
| 許可業者 | 2 | 4 | 5 | 7 | 7 |
| 一般・事業系持込み | 594 | 657 | 744 | 716 | 648 |
| 収集有害ごみ(搬出量) | 39 | 41 | 41 | 31 | 34 |
| 一般廃棄物合計 | 37,725 | 37,461 | 37,124 | 35,375 | 35,810 |
| 産業廃棄物 | 2,112 | 2,404 | 2,181 | 2,399 | 2,429 |
| 三の倉センター | 1,150 | 1,254 | 1,278 | 1,421 | 1,330 |
| 大畑センター | 612 | 656 | 606 | 639 | 334 |
| 笠原クリーンセンター | 350 | 494 | 297 | 339 | 765 |
| 下水汚泥 | 8,021 | 7,975 | 7,768 | 7,657 | 7,909 |
| し尿汚泥 | 346 | 298 | 261 | 281 | 240 |
| 下水し渣 | 170 | 128 | 123 | 137 | 122 |

平成 25 年度の小型家電リサイクル法の施行に伴い、平成 25 年度より小型家電の出荷量を掲載



2 ごみの資源化状況

(1) 市の回収における資源化

① リサイクルステーションでの資源収集

平成 12 年度から約 480 箇所（現在約 600 箇所）のリサイクルステーションを設け、23 分別による資源収集を始めました。24 年 4 月からは、陶磁器食器についても資源として収集を開始しました。回収は、かご回収方式で行い、委託業者により前日にかご等を配置し、当日回収を行っています。

分別収集によって回収された資源のうち、飲料缶類、その他金属、紙類、布類、生きビンは、民間事業者に売却しています。ペット・発泡類は、センターで分別して再生工場に引き渡しています。4 種類に分別された雑ビン類は、カレット状に粉砕し、再利用しています。陶磁器食器は、陶磁器の原料製造工場に搬出しています。有害ごみである電池・水銀体温計と蛍光管も、ドラム缶に詰めて、リサイクル工場に搬出し、資源化を図っています。

資源収集量 (単位:t)

| 項目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 収集紙類 | 2,647 | 2,271 | 1,919 | 1,482 | 1,473 |
| 新聞紙チラシ | 1,175 | 998 | 878 | 760 | 725 |
| 雑誌類(含雑紙) | 1,009 | 858 | 699 | 480 | 494 |
| 段ボール | 447 | 402 | 315 | 234 | 245 |
| 牛乳パック | 16 | 13 | 27 | 8 | 9 |
| 収集布類 | 187 | 167 | 103 | 95 | 105 |
| 収集ビン類 | 599 | 604 | 498 | 503 | 484 |
| 収集カン・金属類 | 330 | 309 | 257 | 217 | 221 |
| 飲料缶 | 106 | 101 | 93 | 74 | 72 |
| その他金属 | 224 | 208 | 164 | 143 | 149 |
| ペット・発泡類(出荷量) | 174 | 185 | 164 | 154 | 138 |
| 白色トレイ | 14 | 13 | 10 | 11 | 10 |
| 色柄トレイ、発泡スチロール | 25 | 23 | 30 | 32 | 29 |
| ペットボトル | 135 | 149 | 124 | 111 | 100 |
| 天ぷら油 | 49 | 58 | 19 | 20 | 19 |
| 陶磁器食器 | 47 | 69 | 37 | 37 | 38 |
| 電池・水銀体温計・蛍光管 | | | 26 | 29 | 26 |
| 合計 | 4,033 | 3,663 | 3,023 | 2,537 | 2,505 |

* 陶磁器食器の22年度～24年度までは、出荷量を掲載。

* 乾電池・蛍光管は、25年度より資源収集量として掲載。

② 持込みによる資源回収

三の倉センター、大畑センター及び笠原クリーンセンターで、平日（月曜日～金曜日）の午前 9 時～12 時、午後 1 時～4 時まで資源の持ち込みを受け付けています。なお、毎月第 3 日曜日の午前中も受け入れを行っています。

また、事業系ごみとして持ち込まれた廃棄物からも、搬入者に分別していただき、資源を回収しています。

笠原クリーンセンターは、平成 28 年 4 月から受入を休止しています。

(2) 市による回収前段階における資源化

①資源集団回収

従来からPTAや子ども会等により、古紙やアルミ缶などの回収は行われていましたが、市況の低下から回収意欲が衰えて、ごみとして排出されるようになりました。このため市では、平成3年4月から古紙等を集団で回収する市民団体に奨励金を交付することにしました。

市況が悪かった平成10年度頃と比べて、市況が回復してきていることから、平成24年度から奨励金の単価の引き下げを実施しました。

資源集団回収量の実績 (単位:t)

| 項目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 集団回収合計 | 3,395 | 3,191 | 2,930 | 2,766 | 2,594 |
| 段ボール | 633 | 612 | 570 | 541 | 526 |
| 新聞 | 1,694 | 1,575 | 1,416 | 1,331 | 1,241 |
| 雑誌 | 882 | 821 | 773 | 732 | 669 |
| 牛乳パック | 30 | 30 | 27 | 107 | 29 |
| 古着 | 120 | 117 | 111 | 27 | 102 |
| アルミ缶 | 36 | 36 | 33 | 28 | 27 |
| 集団回収奨励金合計(千円) | 23,111 | 18,724 | 14,239 | 13,747 | 13,039 |

②家庭における生ごみ処理状況

家庭から出る生ごみは、堆肥化することにより、ごみ減量化につながることから、昭和60年度にコンポスト容器の助成制度を創設し、昭和63年度までの4年間で952件の助成を行いました。その後、申請者の減少の為に中断していましたが、リサイクル意識の高まりに伴い平成4年10月から制度を充実し、さらに平成10年4月からは、電気式生ごみ処理機についても補助対象に加え、その普及に努めてきました。

一方、「ボカシ」の取扱いについては、平成5年12月から市による取り次ぎ販売を開始し、平成6年12月から専用容器も助成対象とする等、家庭による生ごみの堆肥化を支援しています。

平成24年度には、平成14年度～23年度の10年間に生ごみ処理容器及び生ごみ処理機の購入補助を受けた方を対象にアンケートを実施し、現在の使用状況等について調査をしました。

平成25年度は、その結果を踏まえ、今後の生ごみ減量策や生ごみ堆肥化の普及啓発策として、補助制度の周知に重点を置き、普及に努めました。

| 項目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|------------|-----|----|----|-----|----|
| 生ごみ処理機件数合計 | 33 | 10 | 19 | 26 | 21 |
| コンポスター | | | | | |
| ボカシ容器 | 15 | 6 | 16 | 11 | 12 |
| 電気式 | 18 | 4 | 3 | 15 | 9 |
| 助成額合計(千円) | 175 | 40 | 48 | 165 | 97 |

(3) 有害ごみの回収

有害ごみとして回収している乾電池・蛍光管等については、県外の民間処分場において適正に処理しています。(一部資源化)

| 品目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|-------|----|----|----|----|----|
| 蛍光管 | 10 | 15 | 15 | 12 | 13 |
| 乾電池 | 29 | 26 | 26 | 20 | 21 |
| 計 | 39 | 41 | 41 | 32 | 34 |

3 収集

(1) 収集システム

ごみと資源の収集は、旧多治見市域では、直営(燃やすごみ・破碎ごみの収集)と委託(資源物の収集)で、旧笠原町域では委託(燃やすごみ・破碎ごみ・資源物の収集)で行っており、年間 21,560 t (平成 27 年度)のごみと資源を収集しています。収集回数は原則として、燃やすごみは週 2 回、破碎ごみは月 1 回、資源は月 2 回となっています。

収集システムの概要

| 排出区分 | | 収集回数 | 排出方法 |
|---------|------------------|-------------------------|--|
| カン・金属類 | 飲料缶 | 月2回(排出区分により、2回に分けて収集) | リサイクル  |
| | その他金属 | | |
| 紙類 | 新聞紙・折込チラシ | | |
| | 雑誌類・ざつ紙類 | | |
| | 段ボール | | |
| | 飲料用紙パック | | |
| 布類 | 布・古着類 | | |
| 生きビン | ビールビン | | |
| | 一升ビン | | |
| 雑ビン | 無色 | | |
| | 茶色 | | |
| | 緑色 | | |
| | 黒色 | | |
| | その他色、化粧品ビン、ガラス製品 | | |
| ペット・発泡類 | ペットボトル | | |
| | 白色発泡トレイ | | |
| | 色・柄発泡トレイ、発泡スチロール | | |
| てんぷら油 | てんぷら油 | 3か月に1回 | リサイクルステーションへ排出 |
| 有害ごみ | 乾電池・水銀体温計 | | |
| | 蛍光管 | | |
| 陶磁器食器 | 陶磁器食器 | | |
| 燃やすごみ | | 週2回 | 指定ごみ袋を使用し、ごみステーションへ排出 |
| 破碎ごみ | | 月1回 | |
| 粗大ごみ | | 品目により燃やすごみ、破碎ごみのいずれかに排出 | 粗大ごみシールを貼って、ごみステーションへ排出 |

(2) 家庭ごみの状況

ごみの排出量は、平成9年1月に導入した指定ごみ袋制により、一定量の減少があり、その後横這い状況となっていました。平成15年度の新焼却場稼動に伴い分別方法を変更し、埋立の区分を廃止しました。従来の埋立ごみは、燃やすごみ、破碎ごみ、資源に分け、分別収集の徹底と新たなごみ減量策の実施を行っています。

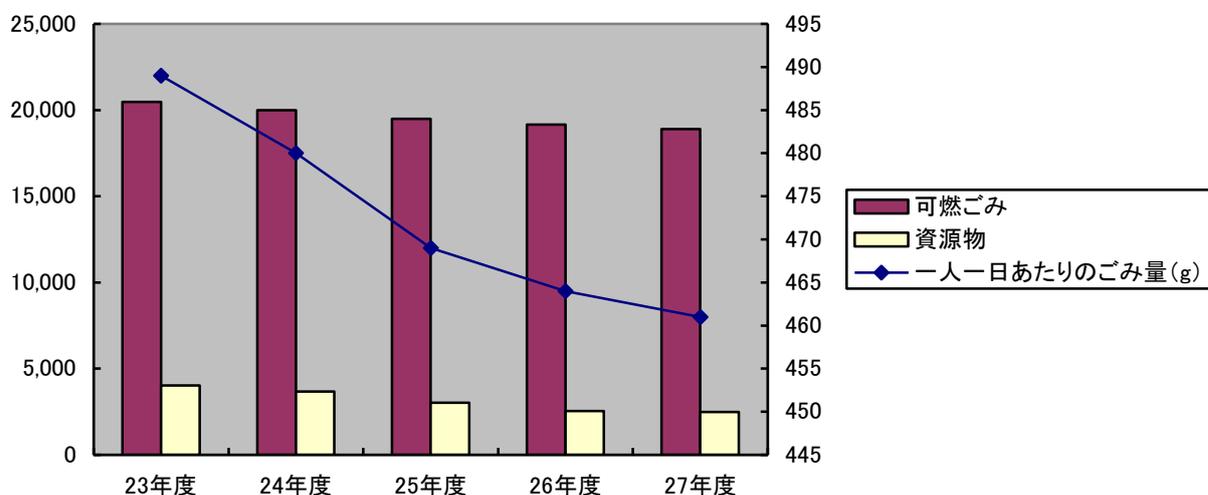
多治見市の1年間の総収集ごみ量（資源を含む）は21,560t（平成27年度）で、市民1人1日当たり521g（平成27年10月1日現在、人口113,462人）排出していることとなります。

1人1日当たりの総排出量は、平成8年度の710gまでの増加傾向が、平成9年1月の指定ごみ袋制の導入により、612g（平成9年度）と大幅に減少しました。その後、再び増加傾向となりましたが、平成17年度にごみ袋を値上げしたこともあり、前年度比で4.48%減少し、平成18年度以降減少傾向が続いています。なお、平成23年度は水害の影響もあり、一時的に増加しましたが、平成27年度は、1人1日当たりのごみ量は461gとなり、前年度と比較して、1人1日当たり3gの減量となりました。

家庭ごみ収集量 (単位:t)

| 年度/項目 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 家庭ごみ総収集量 | 24,757 | 23,887 | 22,697 | 21,855 | 21,560 |
| 一人一日総排出量(g) | 585 | 567 | 541 | 524 | 521 |
| 一人一日あたりのごみ量(g) | 489 | 480 | 469 | 464 | 461 |
| 人口(単位:人) | 116,014 | 115,488 | 115,007 | 114,298 | 113,462 |
| 可燃ごみ | 20,477 | 19,996 | 19,497 | 19,149 | 18,903 |
| 資源物 | 4,033 | 3,663 | 2,997 | 2,508 | 2,479 |
| 破碎ごみ | 208 | 187 | 177 | 169 | 152 |
| 有害ごみ | 39 | 41 | 26 | 29 | 26 |

※一日あたりのごみ量→資源量を外したごみ量
人口は、毎年度10月1日現在



4 事業系ごみの持込み状況

事業系のごみについては、原則として持込みを基本としており、現在 13 社の一般廃棄物収集運搬許可業者及び事業者の直接搬入によって、10,486 t（平成 27 年度）の一般廃棄物が持ち込まれています。

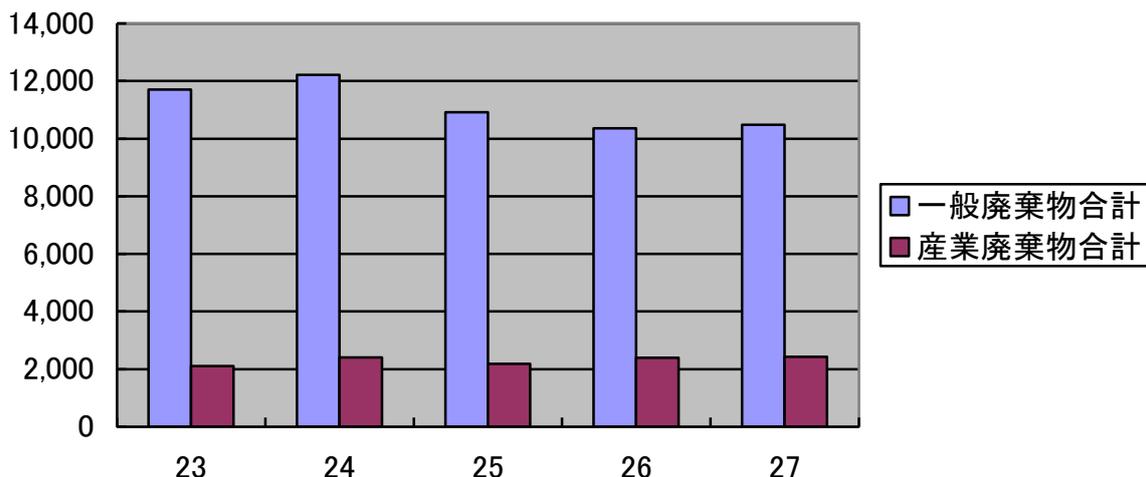
また、本市の場合は陶磁器関連産業が地場産業となっている産業構造の性格から、年間搬入量 50 t を限度にその支援と適正処理の観点から産業廃棄物の併せ処理をしています。

平成 23 年度に循環型社会システム構想の目標を見直し、事業系ごみの資源化率の目標設定はしないこととしましたが、引き続き、ごみ減量や資源化の推進を求めています。

直接搬入ごみ量

| 項目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 一般廃棄物合計 | 11,704 | 12,206 | 10,919 | 10,365 | 10,486 |
| 可燃(燃やすごみ)合計 | 11,704 | 12,206 | 10,919 | 10,365 | 10,486 |
| 許可業者 | 7,482 | 7,754 | 8,390 | 7,968 | 8,167 |
| 事業所等 | 4,222 | 4,452 | 2,529 | 2,398 | 2,319 |
| 産業廃棄物合計 | 2,112 | 2,404 | 2,181 | 2,399 | 2,429 |

(単位:t)



5 不法投棄対策

本市では、不法投棄をなくすために岐阜県との合同パトロール、委託業者による不法投棄監視・回収業務、不法投棄監視カメラの設置等を行っています。

不法投棄監視・回収業務委託

| 項目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|-------|-------|-------|------|------|------|
| 回収件数 | 138件 | 115件 | 65件 | 65件 | 68件 |
| 回収量 | 15.3t | 12.3t | 9.2t | 8.7t | 9.2t |

(パトロール:週4日・委託業者)

6 三の倉センター（中間処理施設）

平成 12 年に着工した三の倉センター新焼却施設は平成 15 年 4 月に本格稼動を開始しました。

この施設はコークスベッド式直接溶融炉という方式を採用し、24 時間連続運転で 1,800 度まで温度を高めることによりダイオキシン対策の水準を飛躍的に高め、国のダイオキシン基準を完全にクリアするとともに、余熱を利用した廃棄物発電を行い場内で使用する電力の一部をまかなっており、平成 25 年度から再生可能エネルギー固定価格買取制度へ移行しました。

併設されているリサイクルプラザでは複合物から資源を取り出すために破碎選別を実施し、資源化量の増加を図っています。

破碎ごみとして収集した小型家電については、分別を行い「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」に基づき、認定事業者へ引き渡しを行っています。

さらに、焼却炉から排出されるメタルとスラグは建設資材等として資源化され、最終的に埋立が必要となるのは飛灰と呼ばれるものだけとなり、重量は元のごみの 6%程度になります。

ごみ焼却量

| 区分／年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 三の倉センター焼却量 | 42,947 | 44,270 | 41,268 | 42,915 | 44,344 |
| 可燃(燃やすごみ) | 34,403 | 35,866 | 33,116 | 34,841 | 36,073 |
| 下水・し尿汚泥 | 8,544 | 8,404 | 8,152 | 8,074 | 8,271 |
| 1日当焼却量 (t/日) | 156 | 150 | 152 | 153 | 158 |
| 一基あたりの稼働回数 (日) | 275 | 296 | 271 | 281 | 281 |
| 稼働時間 1,2号延 | 13,073 | 13,145 | 12,367 | 13,074 | 13,189 |
| 副資材(コークス使用量) | 3,164 | 3,108 | 2,876 | 2,921 | 2,924 |
| スラグ搬出量 | 3,124 | 3,261 | 2,728 | 2,672 | 2,986 |
| メタル搬出量 | 564 | 548 | 518 | 519 | 560 |
| 焼却飛灰 | 2,773 | 2,928 | 2,790 | 2,893 | 2,752 |
| 使用水量 (m ³) | 47,777 | 48,752 | 47,723 | 42,086 | 49,144 |
| 使用電力量 (MWh) | 12,094 | 12,338 | 11,835 | 12,009 | 12,527 |
| 発電量(MWh) | 12,433 | 12,776 | 11,720 | 12,861 | 12,699 |
| 送電量(MWh) | 1,507 | 1,556 | 1,333 | 1,846 | 1,411 |

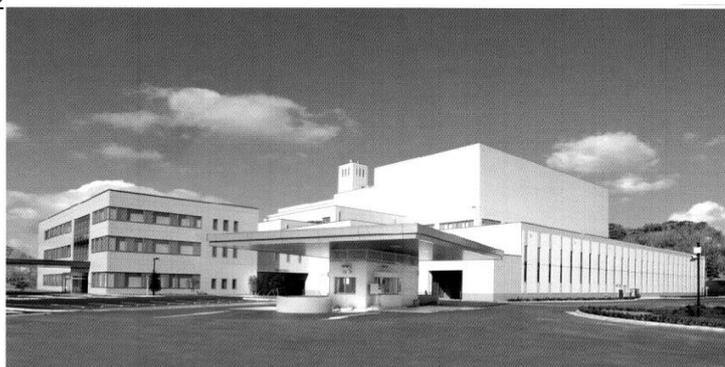
三の倉センターの概要

| | |
|-----------|--|
| 所在地 | 多治見市三の倉町猪場 37 番地 |
| 計画処理能力 | 170t/日 (85t/24h×2系列) |
| 処理対象物 | 一般都市ごみ(130t/日) 下水汚泥 (38t/日) し尿汚泥 (2t/日) |
| 炉形式 | コークスベッド式直接熔融方式 |
| ①受入れ・供給設備 | ピット・アンド・クレーン全自動(ごみピット 910t) 汚泥受入投入装置 |
| ②燃焼設備 | コークスベッド式直接熔融炉式(1700℃～1800℃) |
| ③燃焼ガス冷却設備 | 廃熱ボイラ式 |
| ④排ガス処理設備 | バッグフィルター 乾式塩化水素除去装置 ダイオキシン除去装置(活性炭噴霧) NOx除去装置(触媒脱硝装置) |
| ⑤排水処理設備 | 場内循環使用(クローズドシステム) |
| ⑥通風設備 | 平衡通風方式 |
| ⑦余熱利用設備 | 発電(余剰分は電力会社へ売電) 発電能力 2050kwh |
| ⑧熔融物処理設備 | コンベヤバンカ方式 |
| ⑨飛灰処理設備 | 薬剤処理バンカ方式 |
| リサイクルプラザ | 処理能力 34t/日 破砕施設(1次・2次破砕機) 25t/日 資源化施設 3t/日 びんストックヤード 6t/日 再生施設(家具・自転車) |
| 敷地面積 | 40,500 m ² |
| 建築面積 | 18,195 m ² (延床面積) |
| 建設年度 | 着工 平成 12 年 8 月 竣工 焼却場 平成 15 年 3 月 (リサイクルプラザの一部は平成 17 年 3 月完成) |
| 設計・施工 | 新日本製鐵株式会社 |
| 総事業費 | 約 127 億円 |
| 保有車両 | パッカー車 15 台 低床トラック 5 台 軽トラック 1 台 フォークリフト 2 台 リーチローダー 1 台 ミニバックホウ 1 台 ロータリーフォーク 1 台 ホイルローダー 1 台 ダンプ 1 台 ポンプ 1 台 連絡車 2 台 |

三の倉センターでは、一般家庭からの直接持ち込みを次の時間帯で受け付けています。

平日 9:00～12:00 13:00～16:00

毎月第3日曜日 9:00～12:00



7 大畑センター(最終処分施設)

本市の大畑センター(安定型最終処分場)は、昭和47年6月に開設され、現在は一般廃棄物(燃やすごみを除く)や産業廃棄物(陶磁器類・ガラス・瓦礫類等)が搬入され、埋立処分されています。

平成22年6月より三の倉センターより排出される焼却飛灰専用管理型処分場(クローズド型最終処分場)を稼働しました。

また、大畑センターでは、収集してきた資源の一時保管や中間処理をして、回収業者に引き渡しています。

大畑センターでは、一般家庭からの直接持込み(燃やすごみを除く)を次の時間帯で受け付けています。

平日 9:00~12:00 13:00~16:00※

※解体作業を伴う場合は15:00頃まで

毎月第3日曜日 9:00~12:00



大畑センターの概要

| | | | | |
|--------|---|-----|--------|-----|
| 所在地 | 多治見市大畑町大洞 48 番地の 35 | | | |
| 開設 | (安定型)昭和 47 年 6 月(管理型)平成 22 年 6 月 | | | |
| 総面積 | 114, 771 m ² | | | |
| 埋立面積 | (安定型)81, 888 m ² (管理型)4,260 m ² | | | |
| 埋立容量 | (安定型)2, 320, 729m ³ (管理型)35,000 m ³ | | | |
| 埋立残容量 | (安定型)128,937 m ³ (管理型)29,394 m ³ (共に H26 年度末) | | | |
| 排水処理 | 無し | | | |
| その他の施設 | 資源ストックヤード 410 m ² 、資源選別場 589 m ² | | | |
| 保有車両 | リーチローダー | 1 台 | 油圧ショベル | 1 台 |
| | パワーショベル | 2 台 | ポンプ | 1 台 |
| | パッカー車 | 3 台 | 散水車 | 1 台 |
| | ダンプ | 2 台 | 普通貨物 | 1 台 |
| | 軽貨物 | 5 台 | 連絡車両 | 1 台 |

埋立実績 (単位t)

| 区分/年度 | | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|-------------|------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大畑センター埋立量合計 | | 3,235 | 2,559 | 2,631 | 2,871 | 2,141 |
| | 一般廃棄物 | 932 | 421 | 380 | 455 | 164 |
| | 産業廃棄物 | 612 | 656 | 606 | 639 | 334 |
| 管理型 | 焼却飛灰(固形物) | 1,691 | 1,482 | 1,645 | 1,777 | 1,643 |
| 参考 | 愛岐処分場 (三の倉センター焼却飛灰) | 1,083 | 1,445 | 1,146 | 1,116 | 1,105 |
| 合 計 | | 3,866 | 4,004 | 3,777 | 3,987 | 3,246 |

8 笠原クリーンセンター（中間処理、最終処分施設）平成 28 年 4 月から受入休止

①中間処理施設

笠原クリーンセンターは、平成 21 年 3 月 31 日をもって焼却施設・リサイクルセンターとしての機能を休止しました。以後、平成 23 年 4 月 1 日から「可燃ごみ」の受け入れを中止しました。現在は「破碎ごみ」・「埋立ごみ」・「資源」の受け入れも休止しています。

②最終処分施設

最終処分施設として、一般廃棄物最終処分場（安定型・管理型）を管理・運営していました。現在は陶磁器くず、タイルくず、ガラスくず、コンクリートくず及びびがれき類の埋立処分は休止しています。

管理型最終処分場には浸出水処理施設を併設し、適正な水処理を行っています。



安定型最終処分場

管理型最終処分場



笠原クリーンセンターの概要 平成28年4月から受入休止

| | | | | |
|--------|---|-----|----------|-----|
| 所在地 | 多治見市笠原町 4022 番地の 7 | | | |
| 開設 | (安定型)昭和 47 年 6 月 (管理型)平成 7 年 4 月 | | | |
| 総面積 | 103,207 m ² | | | |
| 埋立面積 | (安定型)85,535 m ² (管理型)6,100 m ² | | | |
| 埋立容量 | (安定型)1,451,795 m ³ (管理型)30,000 m ³ | | | |
| 残余容量 | (安定型)107,977 m ³ (管理型)30,207 m ³ (共に H26 年度末) | | | |
| 埋立方法 | (安定型)山間埋立 サンドイッチ方式 (管理型)準好気性埋立構造 サンドイッチ方式 | | | |
| その他の施設 | (管理型)浸出水処理施設 日処理量 25 m ³ | | | |
| 保有車両 | ブルドーザ | 1 台 | ホイールローダー | 1 台 |
| | パワーショベル | 1 台 | ミニバックホウ | 1 台 |
| | パッカー車 | 2 台 | 普通貨物 | 1 台 |
| | 軽貨物 | 2 台 | | |

| 区分/年度 | | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|-----------------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 笠原クリーンセンター埋立量合計 | | 802 | 921 | 749 | 481 | 1,334 |
| 安定型 | 一般廃棄物 | 446 | 326 | 273 | 119 | 428 |
| | 産業廃棄物 | 350 | 494 | 297 | 339 | 765 |
| 管理型 | | 6 | 101 | 179 | 23 | 141 |

9 堆肥化センター（中間処理施設）

本市では、循環型社会システム構想に基づき「脱焼却・脱埋立」に向けた各種の取組みを行っており、この構想において、生ごみの資源化が大きな課題のひとつであると位置付けられています。

この生ごみ資源化を具体化する目的で、平成18年4月に堆肥化センターの本格稼働を開始しました。

堆肥化センターには2つの機能があり、ひとつは生ごみから堆肥を製造する機能、もうひとつは廃食用油からBDF（バイオディーゼル燃料）を製造する機能です。

いずれも市内の各家庭、学校給食及びモデル地区から排出される食品残さ及び廃食用油を利用して堆肥及びBDFを製造しています。

堆肥化センターの運営は、地元で設立された法人に委託しています。

生産された堆肥は、地元が受け皿となり利活用の調整や農業者の利用促進を図っており、BDFは清掃関係車両の一部の燃料として利用しています。

堆肥化センターの概要

| | |
|-------|---|
| 所在地 | 多治見市三の倉町猪場 37 番地 |
| 敷地面積 | 1,400㎡ |
| 施設概要 | 1)堆肥化プラント 堆肥舎(鉄骨造平屋 243㎡) 堆肥化プラント(高速1次発酵機1基・自動投入機1基) 堆肥熟成槽・事務所・合併浄化槽・保管庫 |
| 処理能力 | 2)BDFプラント BDF製造棟(鉄骨造平屋 50㎡) BDF製造装置・給油装置 |
| 処理方式 | 1)堆肥化プラント 最大処理能力 1,000kg/日 |
| 処理対象物 | 2)BDFプラント 100ℓ/日 |
| 総事業費 | 1)堆肥化プラント 一次高速発酵処理(好気性高熱菌による高速発酵)＋二次発酵処理 |
| | 2)BDF製造施設 メチルエステル化法 |
| | 1)堆肥化プラント 一般食品残渣 |
| | 2)BDFプラント 植物性廃食油 |
| | 約0.85億円 |

堆肥排出量及びBDF製造量

| 項目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 堆肥化プラント | | | | | |
| 搬入量(kg) | 146,730 | 150,000 | 137,357 | 138,423 | 137,761 |
| 搬出量(kg) | 55,104 | 56,000 | 54,925 | 38,093 | 34,514 |
| BDF製造施設 | | | | | |
| 搬入量(ℓ) | 30,340 | 38,000 | 37,015 | 39,800 | 36,755 |
| 製造量(ℓ) | 22,413 | 13,000 | 5,952 | 5,394 | 3,999 |

10 し尿処理施設（月見センター）

本市のし尿処理プラントは、昭和35年に27kℓ/日の施設を建設し、また、昭和40年に36kℓ/日を増設、さらに昭和46～47年に、当初27kℓ/日の施設を増改造して51kℓ/日の施設としてきました。しかし、施設の老朽化等による機能低下と浄化槽汚泥処理が増加したため、61kℓ/日の月見センターを新設、平成2年3月から稼働しています。

処理水は浄化センターで再度処理した上で土岐川へ放流し、前処理し渣や脱水汚泥は三の倉センターで処分しています。

一般家庭からのし尿収集については、昭和42年から多治見市衛生公社へ委託をしました。現在では、し尿収集業者については2社、浄化槽清掃業者については3社に許可を行っています。

し尿処理人口は、公共下水道の普及及び浄化槽への切替えにより年々減少しています。

市では、下水道事業認可区域外の河川浄化を促進するため、昭和63年度から合併処理浄化槽の設置に補助金を交付しています。

更に、平成12年度からは浄化槽を設置する場合は、合併浄化槽の設置が義務づけられたことにより、水質浄化の促進が図られています。

月見センター



月見センターの概要

| | |
|--------|--|
| 所在地 | 多治見市月見町3丁目73番地の2 |
| 敷地面積 | 6,606 m ² |
| 建築面積 | 905 m ² |
| 延床面積 | 1,750 m ² |
| 処理対象人口 | 47,700人 |
| 処理能力 | 61kℓ日（生し尿：40kℓ+浄化槽汚泥：21kℓ） |
| 処理方式 | 標準脱窒素処理方式（低希釈法） |
| 放流水質 | pH：5.8～8.6 BOD：30mg/ℓ以下 COD：90mg/ℓ以下 SS：70mg/ℓ以下 T-N：15mg/ℓ以下 T-P：28mg/ℓ以下 色度：500度以下 |
| 建設年度 | 着工 昭和62年10月 竣工 平成2年3月 |
| 総事業費 | 約15億円 |

し尿処理の状況

(単位:kl)

| 項目/年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|----------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| し尿処理量 | 4,476 | 4,299 | 4,075 | 3,559 | 3,113 | 2,893 |
| 浄化槽汚泥 | 8,730 | 7,563 | 7,408 | 7,015 | 6,633 | 6,824 |
| 合計 | 13,206 | 11,862 | 11,483 | 10,574 | 9,746 | 9,717 |
| 脱水汚泥量(t) | 426 | 346 | 303 | 260 | 278 | 238 |

し尿処理方式の構成

(総人口は毎年 4月 1日現在の人口) (単位:人)

| 項目/年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 116,325 | 115,802 | 115,178 | 114,457 | 113,718 | 112,891 |
| 世帯数 | 43,801 | 44,080 | 44,472 | 44,806 | 45,104 | 45,435 |
| 汲取人口 | 4,662 | 4,344 | 4,106 | 3,786 | 3,489 | 3,328 |
| 世帯数 | 2,072 | 1,939 | 1,907 | 1,804 | 1,743 | 1,570 |
| 公共下水道 | 97,716 | 97,992 | 97,645 | 97,536 | 97,304 | 97,258 |
| 世帯数 | 36,379 | 36,946 | 37,350 | 37,843 | 38,250 | 38,818 |
| 浄化槽人口 | 13,795 | 13,318 | 13,279 | 12,991 | 12,781 | 12,157 |
| 世帯数 | 5,291 | 5,136 | 5,156 | 5,097 | 5,054 | 4,990 |
| 農業集落排水人口 | 152 | 148 | 148 | 144 | 144 | 148 |
| 世帯数 | 59 | 59 | 59 | 62 | 57 | 57 |

合併浄化槽補助の推移

(単位:基、千円)

| 項目/年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|--------|-------|-----|-------|----|-------|-----|
| 補助基数 | 4 | 1 | 5 | 0 | 3 | 2 |
| 金額(千円) | 1,664 | 332 | 1,742 | 0 | 1,250 | 746 |

校区別し尿処理及び生活雑排水処理の状況

| 人口別 | 総人口 | 下水化人口(人) | 下水化人口 | 農業集落排水(人) | 農業集落排水 | 合併処理浄化槽(人) | 合併処理浄化槽 | 単独浄化槽(人) | 単独処理浄化槽 | 浄化槽計 | し尿処理(人) | し尿処理 | 生活排水処理 | 生活排水非処理 |
|-----|---------|----------|-------|-----------|--------|------------|---------|----------|---------|------|---------|------|--------|---------|
| 養正 | 8,569 | 8,114 | 95% | 0 | 0% | 108 | 1% | 220 | 3% | 4% | 127 | 1% | 96% | 4% |
| 昭和 | 8,329 | 8,124 | 98% | 0 | 0% | 32 | 0% | 105 | 1% | 2% | 68 | 1% | 98% | 2% |
| 精華 | 10,727 | 10,295 | 96% | 0 | 0% | 34 | 0% | 270 | 3% | 3% | 128 | 1% | 96% | 4% |
| 共栄 | 9,244 | 8,580 | 93% | 0 | 0% | 129 | 1% | 354 | 4% | 5% | 181 | 2% | 94% | 6% |
| 池田 | 4,296 | 3,866 | 90% | 148 | 3% | 217 | 5% | 32 | 1% | 6% | 33 | 1% | 98% | 2% |
| 小泉 | 12,673 | 11,170 | 88% | 0 | 0% | 446 | 4% | 747 | 6% | 9% | 310 | 2% | 92% | 8% |
| 根本 | 21,356 | 19,039 | 89% | 0 | 0% | 684 | 3% | 1,288 | 6% | 9% | 345 | 2% | 92% | 8% |
| 滝呂 | 9,389 | 9,096 | 97% | 0 | 0% | 8 | 0% | 154 | 2% | 2% | 131 | 1% | 97% | 3% |
| 市之倉 | 6,760 | 6,057 | 90% | 0 | 0% | 62 | 1% | 394 | 6% | 7% | 247 | 4% | 91% | 9% |
| 南姫 | 4,906 | 351 | 7% | 0 | 0% | 1,919 | 39% | 2,000 | 41% | 80% | 636 | 13% | 46% | 54% |
| 脇之島 | 6,607 | 6,578 | 100% | 0 | 0% | 19 | 0% | 10 | 0% | 0% | 0 | 0% | 100% | 0% |
| 笠原 | 10,035 | 5,988 | 60% | 0 | 0% | 521 | 5% | 2,404 | 24% | 29% | 1,122 | 11% | 65% | 35% |
| 計 | 112,891 | 97,258 | 86% | 148 | 0% | 4,179 | 4% | 7,978 | 7% | 11% | 3,328 | 3% | 90% | 10% |

※生活排水処理…下水道、農業集落排水、合併浄化槽

※生活排水非処理…単独浄化槽、し尿

※北栄地区は根本地区に含まれる

1 1 処理施設における環境測定状況

三の倉センター、大畑センター及び笠原クリーンセンター（平成28年4月から受入休止）においては、周辺環境保全のため排ガス検査や水質検査を定期的に行い監視に努めています。

(1) 三の倉センターのダイオキシン調査

焼却施設

| 検査日 | 炉別 | 排ガス (ng-TEQ/m ³ N) | 飛灰 (ng-TEQ/g) | 飛灰処理物 (ng-TEQ/g-dry) | スラグ (ng-TEQ/g-dry) | 主灰 (ng-TEQ/g) |
|--------------|----|----------------------------------|------------------|-------------------------|-----------------------|------------------|
| H22.12.20~21 | 1号 | 0.003600 | - | 0.85 | 0.0000064 | - |
| | 2号 | 0.005500 | | | | |
| H23.10.21 | 1号 | 0.001600 | - | 0.40 | 0.0000000 | - |
| | 2号 | 0.010000 | | | | |
| H24.7.5 | 1号 | 0.002500 | - | 0.63 | 0.0000075 | - |
| | 2号 | 0.001100 | | | | |
| H25.7.30 | 1号 | 0.001800 | - | 0.37 | 0.000000021 | - |
| | 2号 | 0.000120 | | | | |
| H26.10.24 | 1号 | 0.002200 | - | 0.29 | 0.000000000 | - |
| | 2号 | 0.004000 | | | | |
| H27.6.12 | 1号 | 0.001800 | - | 0.62 | 0.000031000 | - |
| | 2号 | 0.003600 | | | | |

※排ガス基準 80ng-TEQ/g(平成14年11月まで)、5ng-TEQ/g(平成14年12月1月から)

※排ガス(三の倉センター自主基準0.05ng-TEQ/m³N)

周辺土壌

| 検査日 | 採取場所 | 土壌 (pg-TEQ/g) |
|----------|-----------|------------------|
| H23.8.30 | 三の倉センター周辺 | 1.1 |
| H24.8.17 | 三の倉センター周辺 | 5.3 |
| H25.8.30 | 三の倉センター周辺 | 20.0 |
| H26.9.10 | 三の倉センター周辺 | 0.19 |
| H27.9.28 | 三の倉センター周辺 | 2.40 |

※土壌基準暫定ガイドライン 1,000pg-TEQ/g

(2) 大畑センター

ダイオキシン調査

| 検査日 | 放流水 (pg-TEQ/L) | 地下水(堰堤下) (pg-TEQ/L) |
|-----------|-------------------|------------------------|
| H23.10.19 | 0.007 | 0.032 |
| H24.8.20 | 0.0034 | 0.280 |
| H25.8.30 | 0.022 | 0.740 |
| H26.9.11 | 0.0039 | 0.410 |
| H27.9.28 | 0.031 | 0.330 |

※放流水基準 10pg-TEQ/ℓ、地下水 基準なし

放流水検査結果 (平成27年度)

| 検査項目/年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | ※1排水基準 |
|------------------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|
| pH | 7.6 | 7.6 | 7.5 | 7.4 | 7.3 | 5.8-8.6 |
| BOD mg/l | 3.3 | 1.6 | 2.5 | 3.0 | 2.2 | 60以下 |
| COD mg/l | 2.8 | 3.7 | 3.4 | 3.4 | 3.0 | 90以下 |
| SS mg/l | 4.0 | 5.0 | 4.0 | 5.0 | 2.0 | 60以下 |
| n-ヘキサン抽出物質 mg/l | 0.5未満 | 0.5未満 | 0.5未満 | 0.5未満 | 0.5未満 | 5以下 |
| フェノール類含有量 mg/l | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 5以下 |
| 銅含有量 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 3以下 |
| 亜鉛含有量 mg/l | 0.04 | 0.04 | 0.05 | 0.06 | 0.08 | 2以下 |
| 溶解性鉄含有量 mg/l | 0.18 | 0.21 | 0.06 | 0.28 | 0.13 | 10以下 |
| 溶解性マンガン含有量 mg/l | 0.17 | 0.20 | 0.23 | 0.16 | 0.14 | 10以下 |
| クロム含有量 mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 2以下 |
| 大腸菌群数 個/ml | 43 | 5 | 19 | 24 | 11 | 3000以下 |
| 窒素含有量 mg/l | 4.5 | 3.9 | 4.1 | 4.3 | 3.7 | 120以下 |
| 燐含有量 mg/l | 0.039 | 0.037 | 0.025 | 0.056 | 0.019 | 16以下 |
| カドミウム及びその化合物 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.003未満 | 0.03以下 |
| シアン化合物 mg/l | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 1以下 |
| 有機リン化合物 mg/l | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 1以下 |
| 鉛及びその化合物 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| 六価クロム化合物 mg/l | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.5以下 |
| 砒素及びその化合物 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| 水銀及びアルキル水銀その他水銀化合物 mg/l | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.005以下 |
| アルキル水銀化合物 mg/l | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | ※2検出されないこと |
| PCB mg/l | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.003以下 |
| トリクロロエチレン mg/l | 0.03未満 | 0.03未満 | 0.03未満 | 0.03未満 | 0.03未満 | 0.3以下 |
| テトラクロロエチレン mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| ジクロロメタン mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.2以下 |
| 四塩化炭素 mg/l | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.02以下 |
| 1,2-ジクロロエタン mg/l | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.04以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.2以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン mg/l | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.4以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン mg/l | 0.3未満 | 0.3未満 | 0.3未満 | 0.3未満 | 0.3未満 | 3以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン mg/l | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.06以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン mg/l | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.02以下 |
| チウラム mg/l | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.06以下 |
| シマジン mg/l | 0.003未満 | 0.003未満 | 0.003未満 | 0.003未満 | 0.003未満 | 0.03以下 |
| チオベンカルブ mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.2以下 |
| ベンゼン mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| セレン及びその化合物 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| ほう素及びその化合物 mg/l | 1.1 | 1.1 | 1.2 | 1.0 | 1.2 | 50以下 |
| ふっ素及びその化合物 mg/l | 0.2 | 0.2 | 0.1 | 0.1未満 | 0.1未満 | 15以下 |
| アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 mg/l | 3.1 | 2.8 | 3 | 3 | 2.9 | ※3 |
| 1,4-ジオキサン mg/l | - | - | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.5 |

※1 一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令による排水基準 別表第1

※2 「検出されないこと」とは、付表2に定める方法における定量限界値(0.0005mg/l)以下であること。

※3 1リットルにつきアンモニア性窒素に0.4を乗じたものに亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量200mg以下

地下水検査結果（平成27年度）

| 検査項目/採水箇所 | 7/28採取 | | | | ※1環境基準 |
|----------------------|---------------|---------------|----------------|---------------|------------|
| | 堰堤下 (観測井1) | 上流部 (観測井2) | 調整池側 (観測井3) | 側面部 (観測井4) | |
| 気温(°C) | 28 | 32 | 33 | 31 | |
| 水温(°C) | 17.6 | 18.6 | 18.7 | 18.4 | |
| カドミウム(mg/l) | 0.0003未満 | 0.0003未満 | 0.0003未満 | 0.0003未満 | 0.003以下 |
| 全シアン(mg/l) | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | ※2検出されないこと |
| 鉛(mg/l) | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.01以下 |
| 六価クロム(mg/l) | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.05以下 |
| 砒素(mg/l) | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.01以下 |
| 総水銀(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005以下 |
| アルキル水銀(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | ※3検出されないこと |
| PCB(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | ※4検出されないこと |
| ジクロロメタン(mg/l) | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.02以下 |
| 四塩化炭素(mg/l) | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.002以下 |
| 1,2-ジクロロエタン(mg/l) | 0.0004未満 | 0.0004未満 | 0.0004未満 | 0.0004未満 | 0.004以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン(mg/l) | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.1以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 1以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン(mg/l) | 0.0006未満 | 0.0006未満 | 0.0006未満 | 0.0006未満 | 0.006以下 |
| トリクロロエチレン(mg/l) | 0.001未満 | 0.001未満 | 0.001未満 | 0.001未満 | 0.03以下 |
| テトラクロロエチレン(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0026 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.01以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン(mg/l) | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.002以下 |
| チウラム(mg/l) | 0.0006未満 | 0.0006未満 | 0.0006未満 | 0.0006未満 | 0.006以下 |
| シマジン(mg/l) | 0.0003未満 | 0.0003未満 | 0.0003未満 | 0.0003未満 | 0.003以下 |
| チオベンカルブ(mg/l) | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.02以下 |
| ベンゼン(mg/l) | 0.001未満 | 0.001未満 | 0.001未満 | 0.001未満 | 0.01以下 |
| セレン(mg/l) | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.01以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 0.012未満 | 1.0 | 0.013 | 0.045 | |
| ふっ素(mg/l) | 0.1 | 0.1未満 | 0.2 | 0.1未満 | |
| ほう素(mg/l) | 0.02未満 | 0.15 | 0.04 | 0.02未満 | |
| 1,4ジオキサン(mg/l) | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.05以下 |
| 塩化ビニルモノマー(mg/l) | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.002以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン(mg/l) | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.04以下 |
| 有機りん化合物(mg/l) | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | |
| 電気伝導率(mS/m) | 8.8 | 14.0 | 30.0 | 2.6 | |
| 塩化物イオン(mg/l) | 1.6 | 3.4 | 1.9 | 2.0 | |

※1 一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令による排水基準 別表第2

※2 「検出されないこと」とは、規格38.1.2及び38.2に定める方法、規格38.1.2及び38.3に定める方法又は規格38.1.2及び38.5に定める方法における定量限界値(0.1mg/l)以下であること。

※3 「検出されないこと」とは、付表2に定める方法における定量限界値(0.0005mg/l)以下であること。

※4 「検出されないこと」とは、付表3に定める方法における定量限界値(0.0005mg/l)以下であること。

(3) 笠原クリーンセンター 平成28年4月から受入休止

ダイオキシン調査

① 焼却施設

| 検査日 | 炉別 | 排ガス (ng-TEQ/m ³ N) | 飛灰 (ng-TEQ/g) | 焼却灰 (ng-TEQ/g) |
|-------------------------|----|----------------------------------|------------------|-------------------|
| H20.10.24～ H20.10.24 | 1号 | 0.130000 | 8.7 | 0.1500 |
| | 2号 | 0.038000 | 15.0 | |

※排ガス基準 5ng-TEQ/g
平成21年3月末で焼却停止

②最終処分施設

| 検査日 | 放流水 (pg-TEQ/L) | 地下水 (pg-TEQ/L) |
|-----------|-------------------|-------------------|
| H23.10.19 | 0.0027 | 0.0280 |
| H24.8.20 | 0.0036 | 0.0120 |
| H25.8.30 | 0.037 | 0.0190 |
| H26.9.11 | 0.00024 | 0.0140 |
| H27.9.28 | 0.000032 | 0.0130 |

※放流水基準 10pg-TEQ/L、地下水 基準なし

放流水検査結果（平成 27 年度）

| 検査項目/年度 | 24 | 25 | 26 | 27 | ※1排水基準 |
|------------------------------------|----------|----------|----------|----------|------------|
| pH | 8.0 | 8.0 | 8.0 | 7.8 | 5.8-8.6 |
| BOD mg/l | 0.6 | 0.5未満 | 0.8 | 0.5未満 | 60以下 |
| COD mg/l | 3.8 | 3.1 | 2.0 | 1.3 | 90以下 |
| SS mg/l | 1未満 | 1未満 | 1未満 | 1未満 | 60以下 |
| n-ヘキサン抽出物質 mg/l | 0.5未満 | 0.5未満 | 0.5未満 | 0.5未満 | 5以下 |
| フェノール類含有量 mg/l | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 5以下 |
| 銅含有量 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 3以下 |
| 亜鉛含有量 mg/l | 0.06 | 0.05 | 0.05 | 0.04 | 2以下 |
| 溶解性鉄含有量 mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 10以下 |
| 溶解性マンガン含有量 mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02 | 0.02未満 | 10以下 |
| クロム含有量 mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 2以下 |
| 大腸菌群数 個/ml | 8 | 3 | 360 | 0 | 3000以下 |
| 窒素含有量 mg/l | 5.4 | 4.5 | 3.5 | 2.7 | 120以下 |
| リン含有量 mg/l | 0.024 | 0.018 | 0.042 | 0.046 | 16以下 |
| カドミウム及びその化合物 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.003未満 | 0.03以下 |
| シアン化合物 mg/l | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 1以下 |
| 有機リン化合物 mg/l | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 0.1未満 | 1以下 |
| 鉛及びその化合物 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| 六価クロム化合物 mg/l | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.5以下 |
| 砒素及びその化合物 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| 水銀及びアルキル水銀その他水銀化合物 mg/l | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.005以下 |
| アルキル水銀化合物 mg/l | 不検出 | 不検出 | 不検出 | 不検出 | ※2検出されないこと |
| PCB mg/l | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.003以下 |
| トリクロロエチレン mg/l | 0.03未満 | 0.03未満 | 0.03未満 | 0.03未満 | 0.3以下 |
| テトラクロロエチレン mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| ジクロロメタン mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.2以下 |
| 四塩化炭素 mg/l | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.02以下 |
| 1,2-ジクロロエタン mg/l | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.04以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.2以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン mg/l | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.4以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン mg/l | 0.3未満 | 0.3未満 | 0.3未満 | 0.3未満 | 3以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン mg/l | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.06以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン mg/l | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.02以下 |
| チウラム mg/l | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.006未満 | 0.06以下 |
| シマジン mg/l | 0.003未満 | 0.003未満 | 0.003未満 | 0.003未満 | 0.03以下 |
| チオベンカルブ mg/l | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.02未満 | 0.2以下 |
| ベンゼン mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| セレン及びその化合物 mg/l | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.01未満 | 0.1以下 |
| ぼう素及びその化合物 mg/l | 1 | 0.6 | 0.7 | 0.8 | 50以下 |
| ふっ素及びその化合物 mg/l | 0.2 | 0.1 | 0.1未満 | 0.1未満 | 15以下 |
| アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 mg/l | 4.6 | 4.1 | 3.2 | 2.6 | ※3 |
| 1,4-ジオキサン mg/l | - | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.05未満 | 0.5 |

※1 一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令による排水基準 別表第1

※2 「検出されないこと」とは、付表2に定める方法における定量限界値(0.0005mg/l)以下であること。

※3 1リットルにつきアンモニア性窒素に0.4を乗じたものに亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量200mg以下

地下水検査結果（平成 27 年度）

| 検査項目/採水箇所 | 7/28採取 | | ※1環境基準 |
|----------------------|----------|----------|------------|
| | 観測井1 | 観測井2 | |
| 気温(°C) | 32 | 32 | |
| 水温(°C) | 17.2 | 16.4 | |
| カドミウム(mg/l) | 0.0003未満 | 0.0003未満 | 0.003以下 |
| 全シアン(mg/l) | 0.1未満 | 0.1未満 | ※2検出されないこと |
| 鉛(mg/l) | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.01以下 |
| 六価クロム(mg/l) | 0.04未満 | 0.04未満 | 0.05以下 |
| 砒素(mg/l) | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.01以下 |
| 総水銀(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.0005以下 |
| アルキル水銀(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | ※3検出されないこと |
| PCB(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | ※4検出されないこと |
| ジクロロメタン(mg/l) | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.02以下 |
| 四塩化炭素(mg/l) | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.002以下 |
| 1,2-ジクロロエタン(mg/l) | 0.0004未満 | 0.0004未満 | 0.004以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン(mg/l) | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.1以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 1以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン(mg/l) | 0.0006未満 | 0.0006未満 | 0.006以下 |
| トリクロロエチレン(mg/l) | 0.001未満 | 0.001未満 | 0.03以下 |
| テトラクロロエチレン(mg/l) | 0.0005未満 | 0.0005未満 | 0.01以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン(mg/l) | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.002以下 |
| チウラム(mg/l) | 0.0006未満 | 0.0006未満 | 0.006以下 |
| シマジン(mg/l) | 0.0003未満 | 0.0003未満 | 0.003以下 |
| チオベンカルブ(mg/l) | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.02以下 |
| ベンゼン(mg/l) | 0.001未満 | 0.001未満 | 0.01以下 |
| セレン(mg/l) | 0.002未満 | 0.002未満 | 0.01以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 1.3 | 0.012未満 | |
| ふっ素(mg/l) | 0.1 | 0.1未満 | |
| ほう素(mg/l) | 0.07 | 0.02未満 | |
| 1,4ジオキサン(mg/l) | 0.005未満 | 0.005未満 | 0.05以下 |
| 塩化ビニルモノマー | 0.0002未満 | 0.0002未満 | 0.002以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン(mg/l) | 0.004未満 | 0.004未満 | 0.04以下 |
| 電気伝導率(mS/m) | 35.0 | 8.2 | |
| 塩化物イオン(mg/l) | 8.9 | 2.7 | |
| 過マンガン酸カリウム消費量(mg/l) | 2.4 | 3.7 | |

※1 一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令による排水基準 別表第2

※2 「検出されないこと」とは、規格38.1.2及び38.2に定める方法、規格38.1.2及び38.3に定める方法又は規格38.1.2及び38.5に定める方法における定量限界値(0.1mg/l)以下であること。

※3 「検出されないこと」とは、付表2に定める方法における定量限界値(0.0005mg/l)以下であること。

※4 「検出されないこと」とは、付表3に定める方法における定量限界値(0.0005mg/l)以下であること。

1 2 廃棄物処理にかかる経費の状況

平成 27 年度は、ごみ処理で約 1,408,398 千円、し尿処理では約 88,272 千円、合計で約 1,496,670 千円の費用を要しています。

ごみ処理経費を平成 27 年 10 月 1 日の人口（113,462 人）で割ると、1 人当たり 12,413 円の処理費用がかかっている計算となります。

平成 24 年度に、全庁的な使用料等の見直しを検討し、市民 1 人当たりのごみ減量が進んでいることから改定を見送りましたが、平成 29 年度から現行消費税率 8%による増分（3%）を使用料に上乗せするよう検討しています。

廃棄物処理経費の推移

（単位：千円）

| 項目／年度 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 処理経費合計 | 1,599,596 | 1,526,414 | 1,522,742 | 1,551,616 | 1,496,670 |
| ごみ処理費合計 | 1,483,177 | 1,416,905 | 1,420,424 | 1,451,823 | 1,408,398 |
| 収集運搬 | 433,248 | 432,377 | 436,955 | 439,911 | 420,863 |
| 中間処理 | 955,964 | 896,618 | 885,639 | 928,601 | 909,491 |
| 最終処分 | 93,965 | 87,910 | 97,830 | 83,311 | 78,044 |
| し尿処理費合計 | 116,419 | 109,509 | 102,318 | 99,793 | 88,272 |
| 収集運搬 | 69,396 | 65,858 | 57,521 | 51,654 | 48,015 |
| 中間処理 | 43,025 | 40,155 | 41,799 | 44,835 | 37,425 |
| 最終処分 | 3,998 | 3,496 | 2,998 | 3,304 | 2,832 |

ごみ 1 トン当たりの処理経費 (円)

| | |
|--------|--------|
| 収集運搬費 | 20,070 |
| 焼却等の処理 | 23,600 |
| 計 | 43,670 |

13 収集した資源の売払い

分別収集した資源は、リサイクル、再生事業者に引き渡しています。入札により売却しますが、品目や市況によっては無償あるいは逆有償（市が料金を支払って引取りを依頼する）になる品目もあります。近年は金属類や紙類の市況が良い状態が続いています。

リサイクルには経費やエネルギーが必要なため、引き続き各家庭における排出量自体の低減を啓発していきます。

平成27年度の状況

| 品目 | 売却時期 | 単価(円/t) | 量(t) | 売却金額(円) | 備考 |
|--------------------|------|------------|----------|------------|----------|
| スチールプレス | 11月 | 15,660 | 39.16 | 613,245 | |
| | 3月 | 17,280 | 7.49 | 129,427 | |
| アルミプレス | 11月 | 122,040 | 55.87 | 6,818,374 | |
| 破碎スチール | 11月 | 13,068 | 144.6 | 1,889,632 | |
| | 3月 | 15,228 | 65.6 | 998,956 | |
| 破碎アルミ | 11月 | 140,400 | 13.72 | 1,926,288 | |
| | 3月 | 132,948 | 6.70 | 890,751 | |
| コロ (モーター、バイク含む) | 11月 | 14,580 | 62.49 | 911,104 | |
| | 3月 | 17,388 | 18.99 | 330,198 | |
| 18-8ステンレス | 11月 | 118,800 | 2.52 | 299,376 | |
| | 3月 | 97,308 | 0.89 | 86,604 | |
| スチール(バラ) | 11月 | 10,476 | 111.27 | 1,165,664 | |
| | 3月 | 13,068 | 55.58 | 726,319 | |
| 小型家電品 | | | 148.78 | 2,031,940 | |
| 小計(金属) | | | 733.66 | 18,817,878 | |
| 一升ビン | | 1円/本 | 10,640 | 10,640 | |
| ビールビン | | 3円/本 | 2,650 | 7,950 | |
| 透明ビン | | | | | 無償で引き渡し |
| 茶ビン | | | | | 無償で引き渡し |
| 黒ビン | | | | | 無償で引き渡し |
| 緑ビン | | | | | 無償で引き渡し |
| その他色ビン | | | 48.47 | -46,046 | * 容リ協ルート |
| その他ガラス | | -35.64円/kg | 29.05 | -1,035,342 | |
| PETボトル | | | 123.89 | 5,241,034 | * 容リ協ルート |
| 白色トレイ | | | 10.07 | 239,880 | * 容リ協ルート |
| 色柄トレイ発泡スチロール | 4~3月 | -54円/kg | 16.62 | -897,786 | |
| 新聞紙 | 4~3月 | 9円/kg | 815.19 | 7,336,710 | |
| 段ボール | 4~9月 | 9円/kg | 329.28 | 2,963,520 | |
| 雑誌・ざつ紙 | 4~3月 | 7円/kg | 668.43 | 4,679,010 | |
| 紙パック | 4~3月 | 6円/kg | 10.48 | 62,850 | |
| 古着 | 4~3月 | 1円/kg | 169.45 | 169,445 | |
| 小計(紙類) | | | 1,992.83 | 15,211,535 | |
| 陶磁器 | | | 51.55 | -1,013,266 | |
| 乾電池 | | -93,960 | 27.14 | -2,550,073 | |
| 蛍光管 | | -110,160 | 13.16 | -1,449,704 | |
| てんぷら油 | | 37.0円/L | 34,600L | 1,280,200 | |
| メタル | | 39,096 | 560.48 | 21,912,529 | |
| スラグ | | 162 | 2,917.51 | 472,627 | |

* 容リ協ルート・・・容器包装リサイクル法に基づき、市が収集している資源を容器包装リサイクル協会へ引き渡し、再生処理業者に売却されるもの

14 ごみ減量施策の取り組み状況

平成27年度は、下記のようなごみ減量施策について、重点的に取り組みました。

(1) 家庭ごみの分別収集の更なる促進

昨年度に引き続き、転入者の方やお届けセミナー等で、分別収集啓発チラシを配布しました。

(2) 家庭の生ごみ堆肥化の取り組み誘導等の促進

生ごみ減量啓発の特集記事(4ページ)を広報たじみ10月号に掲載し、生ごみ処理機や処理容器の補助制度についてお知らせしました。また、分別収集啓発チラシを随時配布しました。

(3) 事業者に向けた廃棄物減量の啓発

廃棄物処理承認書交付時に廃棄物減量の啓発チラシを配布しました。

(4) 草木類のリサイクルのための環境整備

地域ボランティア清掃等で排出される草木類について、試験的な試みとして、市内事業者による堆肥化を図りました。

(5) 総合環境学習の展開(たじみエコカレッジの実施)

市民向け環境学習講座「たじみエコカレッジ」開講し、小学生を対象に自然環境体験学習(ジュニアコース)や一般を対象に環境講座(エネルギー・リサイクルコースと自然環境コース)を各5回実施しました。また、夏休みには、小学生の親子を対象としたエコクッキングを実施しました。

名 称 多治見市の環境・廃棄物 平成27年度版
発 行 多治見市
編 集 環境文化部環境課
多治見市日ノ出町 2-15
TEL 0572 (22) 1580
E-mail: kankyo@city.tajimi.lg.jp
平成28年 8月